

平成19年2月

堀江和峰 学位論文審査要旨

主査 箸本 英吉
副主査 林 眞一
同 西連寺 剛

主論文

The role of p38 mitogen-activated protein kinase in regulating interleukin-10 gene expression in Burkitt's lymphoma cell lines

(バーキットリンパ腫細胞株のIL-10遺伝子発現制御におけるp38 MAPキナーゼの役割)

(著者：堀江和峰、大橋 誠、佐藤幸夫、西連寺 剛)

平成19年1月 Microbiology and Immunology 51巻 149頁~161頁

審査結果の要旨

本研究は、B細胞リンパ腫のIL-10発現の調節機構を調べるため、バーキットリンパ腫細胞株を用いてIL-10とp38 MAPキナーゼ(p38 MAPK)の関連を解析した。その結果、BL細胞株においてp38 MAPKが恒常的にリン酸化しており、細胞質に局在すること、p38 MAPK活性阻害によりStat3のDNA結合能が減少し、IL-10産生が低下することを明らかにした。本結果はIL-10遺伝子発現における新知見を報告したものであり、明らかに免疫学や分子生物学分野における学術の水準を高めたものと認められる。